

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570106161		
法人名	医療法人久幸会		
事業所名	りんどうの家		
所在地	秋田県秋田市手形字山崎町164番地2		
自己評価作成日	平成26年8月19日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	平成26年9月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の心情をくみとり、スタッフ全員で温かく真心のこもった、優しいケアの提供をしています。地域行事の参加や地域の一員としての役割を担えるよう地域の方々との触れ合いを大切にしています。秋田駅裏に立地し、駅まで徒歩10分、千秋公園まで20分と秋田市中心部にあり、市内を一望することの出来る屋上は、利用者様の良い気分転換の場所となっています。グループホームは、2階にあり、1、3階は生活訓練施設となっております。利用者様が生活の中で制作した作品は、近くにある銀行の展示スペースで、年1回作品展を開催し出品しています。作品作りが利用者様の大きな楽しみや励みとなっています。自由で当たり前の生活が送れ、互いを思いやり、いたわり、優しさのある安らぎを大切にしたいグループホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は秋田駅近くに移転新築3年目である。2階がグループホームとなっており、1階と3階は生活訓練施設となっている。新興住宅地であることから、地域の中でどのようにしてホームの名前を覚えていただくかというところに苦心しながらも銀行で利用者の作品展示をするなど独自の工夫で地域に溶け込みつつある。事業所内では、利用者が自分のできることを最大限発揮できるよう支援されながら暮らしており、それまでの生活歴を十分に生かす工夫が様々な場面で取り入れられている。事業所内は穏やかな雰囲気に入れられ、ホーム全体が利用者の心安らぐ場所になっていると感じることができる。また、法人のデイケアに通うことは、暮らしにリズム感をもたらすし、利用者の日々を豊かにしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念「優しさ」を掲げている。理念は、年度末のミーティングで全スタッフで評価、見直しを行っている。リビングに明示し、日々折に触れ浸透、実践を図っている。	年度末毎に、スタッフ間で話し合い、理念を確認している。現在は「短く、わかり易く、インパクトのあるものを」と管理者の提案で法人の理念から一つずつ取り上げている。スタッフは利用者に対応する際、理念を意識して行動している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内総会や地域行事には、積極的に参加し、地域との関係を深める努力をしている。事業所便りを町内全戸や近隣に配布し、勉強会の開催や地域の銀行で入居者様の作品展を年1回開催している。	新興住宅地であることから、まずは地域の住民に覚えてもらえることを目標に、一軒一軒周り配布物を手渡したり、銀行で利用者の作品展を開いたり、事業所の勉強会を地域に開放したりと、交流を図れるよう取り組んでいることが確認できる。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	地域の方々に向け、事業所で「認知症サポーター養成講座」を開催し、認知症を理解して頂く事を目的として第3回目を10月に開催する予定としている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回開催し運営状況や活動状況、ヒヤリハット体験、事故報告、研修状況等報告し構成員の方々から様々な視点でのご意見を頂き、即座に検討実行している。	地域包括支援センター職員、民生委員、町内会長、家族、生活訓練施設長などを構成員とし実効性のある意見を聞くことができていることが記録から確認できる。銀行への作品展も会議の中で提案されたものである。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センター職員が運営推進会議に委員として毎回参加して情報交換し、取り組みに助言や指導を頂いている。	地域包括支援センターには日々の報告を行い、相談に乗ってもらったり、助言を受けたりしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングで身体拘束の研修資料の読み合わせを行い、身体拘束による弊害を理解し、共通の認識を持って身体拘束をしないケアに取り組んでいる。建築構造上、玄関は、鍵使用のエレベーターとなっており、安全上配慮されている。	日頃より身体拘束をしないケアを行っており、構造上玄関は鍵使用のエレベーターであるが、屋上に出る機会やデイケアに通う日、外出や散歩などのプログラムが充実しており、リズムのある生活が送られ、閉塞感は感じられない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常生活において、そのような行為がないようスタッフに声を掛け注意をしている。又、研修会に参加し学ぶ機会を作っている。研修で学んだ事は、ミーティングで全スタッフにフィードバックし、情報の共有を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	担当相談員と連携を図り、必要性のある利用者様には、活用の有無を含め相談を受け支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	主治医、利用者様、ご家族様、相談員、管理者等で十分な話し合いを行い、意思確認を行った上で決定している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	公的窓口を文書及び口頭で紹介し、事業所内には、苦情・相談窓口担当氏名を提示し、投書箱を設置している。意見等があった場合は、速やかに協議し、改善に繋げている。	意見要望はいつでも受けられる体制にしてある。投書箱を設置してあるが実際に利用されることは少ないため、面会時などにできるだけ聞くように心掛けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケアカンファレンス、ミーティング以外でも日常的に意見が出され、業務改善がなされている。	ミーティング記録、カンファレンス記録などから日常的に様々な意見が出されていることが確認できる。管理者はスタッフの意見を吸い上げ、法人本部に届けている。代表者は時々事業所を訪れ、利用者の様子に気を配り、現場の状況を汲み取っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に自己評価し、個々の状況を把握している。又、それと共に面接を行って向上心につながるアドバイスがある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得の推奨や経験年数、レベル、希望に応じて法人内外の研修参加を進めている。又、法人内の安全管理や院内感染対策等の勉強会には、全員必須で参加しながら、知識習得できている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	秋田市認知症GH連絡会の、勉強会や相互交流にスタッフ全員が参加して情報交換や親睦が図られるよう努めている。又、相互訪問では、同業者である故、お互いに勉強し合える良い機会を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様と面談を交わし、心身の状況や要望等を受け入れ、段階的に安心感が得られる対応を図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談や電話等でもご家族の心情を十分に聞き取り、受け止める等安心感が得られる対応を図っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食材の切り方、調理の味付け、盛り付け、暮らしの知恵、培ってきた知識を日常生活の様々な場面において、それぞれが得意な所で参加して頂き、助け合って生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常の些細な事でも互いに情報交換し、共の支え合っていく事への結びつきを深めている。又、協力を頂ける範囲内で諸事の付き添い等を行ってもらい、共に利用者様をサポートしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様が大切にしてきた方や場所との関係の継続が図れるよう支援している。	馴染みの関係が保てるよう工夫し支援しているが、相手の事情などもあり、新たな馴染みの場を作るという視点も持って支援している。デイケアに通えることは、他のホームに移った方とそこで会えることから、楽しみの場所ともなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが間に入り、話題を提供する等して全員とのコミュニケーションの場が作られている。一人一人が大切な存在である事を認め合い支え合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されてからでもご本人、ご家族を見掛けた時には、どうしていらっしゃるか声を掛けたり、心配や不安があれば、アドバイスしている。要望や依頼があればいつでも対応し、役立ちたいと思っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で表情や動作・会話などから思いや希望の把握に努め、その人の思いに沿いながらホームでの生活を提供している。	日常のケアの中で、丁寧な表情の読み取りを心掛け、要望を予測して関わっている。うまく伝わらない時や、読み取れないときには他のスタッフと情報を共有しながら察するようにしている。訪問時にも明確な言葉が発せられなくても、一人ひとりの行動の先を見て関わる様子が確認できる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	好みや嗜好に配慮し、思い出の品物や馴染みのある品物を持って来て頂き、今までと変わらぬ本人主体の暮らしが継続出来るよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムと毎日の体調管理には、十分気を配り、日常生活動作において有する力を発揮出来るよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランは、3か月毎に見直しをしておりモニタリングや担当者会議で、ご本人の意向の確認や要望も取り入れた、現状に即した計画作成をしている。ご家族からは、面会時や電話で意向等伺っている。	担当制をとっており、利用者については担当のスタッフが誰よりもその方を理解し、困っていること、やりたいこと、食べたいものなど把握するようにしており、利用者も自分のことを色々気にかけてくれる人というイメージを持っている。希望要望の中で実現できるものは計画に盛り込むようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送り時、ミニカンファレンスを行い、ケアの具体策を挙げ、見直しを行っていないながら介護計画の作成に役立たせている。情報共有は、申し送りと記録物で徹底されている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人が希望する、近隣の医院や1階手形ハウス売店、本屋や訪問美容・食堂・商店・デパート等を利用し生活の質の向上に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に希望する医療機関を伺っている。又、協力医療機関の説明を行っており、かかりつけ医の他、自由に選択出来るようにしている。	利用者、家族の希望する医療機関を受診できる様にしている。受診が容易であることや、将来的なこと、主治医との連携の取りやすさなどを考慮して法人の医療機関を選択する方も多い。また、訪問歯科なども利用している。各受診結果は家族と共有し、適切な医療が受けられるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師への状態報告を行い、必要時は必要医療機関への受診をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当相談員を介して積極的に情報交換や相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	様々な専門分野との連携と終末期介護におけるチームアプローチがスムーズに行えるよう、共通理解の為に話し合いを重ねたい。	法人内の他施設や医療機関の協力があるため、利用者、家族は安心して暮らしている。終末期の対応については主治医の判断と説明し、合意を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に普通救急救命講習を受講する等、緊急時の初期対応の訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月1回の火災や災害を想定した避難訓練を実施すると共に非常災害用の食品他の備蓄をし、いざという時に備えている。避難をする際の1回手形ハウスとの協力体制を確認したり運営推進会議では、町内の代表者に災害時の協力をお願いしている。	同一建物内の事業所や近隣の他法人の施設などと協力体制をとっている。月一回の頻度で避難訓練を行っており、利用者も避難時の動きを身に付けている。居室には一人ひとりの避難方法が掲示しており、誰が誘導しても分かるようになっている。	訓練頻度は高いが、夜間想定訓練が少なく、二階に位置しているという状況もあることから、今後は夜間想定訓練の実施を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの個性性を尊重し、尊厳を大切にした対応をしている。法人内に遭遇委員会があり、法人全体の接遇のレベルアップに取り組んでいる。又、事業所独自に年間の接遇目標を立案し、毎月のミーティングで目標を再確認している。	接遇委員会の記録から目標を確認した。8・9月はお盆やお彼岸などで家族と接する機会が多いと考えられ「家族への対応」が挙げられていた。日々の関わりの中でも、失禁した際に周りに気づかれないよう誘導したり、散歩の際に名前を呼ばないなど、尊厳を保てるよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	暮らしの中で希望が取り入れられるよう選択する機会を設けて、自己決定出来るよう支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様が希望する思い通りの生活空間で日々を過ごせるよう支援している。健康状態の把握や一人ひとりの思いに寄り添い、ご本人が望む生活をサポートしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	好みの洋服選びや、身だしなみについては、さり気無い手助けをしている。希望に沿った理・美容院の予約をし、いつまでもきれいでありたい思いや清潔保持したい思いに沿って支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を使った季節料理を、利用者様と一緒に考え作ったりしている。それぞれが参加できる方法を見つけ、準備や片付けを行い、食事が楽しみとなるような働きかけをしている。	屋上のプランターで栽培し収穫した野菜などを使用して調理するなど、季節を感じられるよう配慮している。食事準備や後片づけの中で利用者ができることは一緒に手伝っている。食事の際はさりげなく援助しながら和やかな雰囲気です食事が勧められるよう配慮されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立を基に調理し、栄養バランスの取れた食事提供をしている。水分摂取量は、1日のトータルを出し、水分不足にならないよう配慮している。一人ひとりの既往歴を踏まえ、食事摂取カロリーにも配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前の嗽、手洗いや毎食後の歯磨きは、習慣化している。出来ない所のお手伝いをする事で、一人ひとりが清潔保持できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを理解して失敗のないよう排泄誘導をしている。失敗した時でもプライバシーに配慮し、自尊心を傷つけないさりげない対応をしている。	基本的にはトイレで排泄できるよう誘導援助している。異食がありパットを使用できない利用者には、失禁する前に誘導できるよう、仕草の読み取りに気を配っている様子が見られる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別の便秘予防に取り組んでいる。朝食時は、カスピ海ヨーグルトを出し、お腹にやさしい便秘予防に努めている。更に腹部マッサージや軽体操、DVD体操を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間をとわず、入浴の希望や必要があった場合は応じている。入浴前は、バイタル測定し、健康状態に合わせて湯温や時間を調整し、楽しんでもらっている。	週2回の入浴が基本であるが、希望があれば柔軟に対応している。個浴対応であり、湯温など希望に沿えるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	心地よい疲労感を持つことで休息や安眠に結びつくよう、1日に生活リズムや運動量の確保に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服内容を記録し、目的や副作用を把握するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や経験を生かし得意な事や好きな事、趣味を続けられる環境作りを努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	希望に沿って買い物や散歩の支援をしている。普段いけない場所であれば、外出レクリエーション等で要望に答えている。又、ご家族や友人等の協力を得て、積極的に外出支援を行っている。	様々なところへ外出支援している。遠くまで行かなくても同一建物の屋上や一階の売店などでも良い気分転換になっている。また、デイケアに通うことは生活にメリハリをつけ、リズム作りの良い手段となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談した上で、本人が管理できる金額を持ってもらい、使って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話は、自由に出したり利用して頂いている。必要に応じてサポートしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内には季節の装飾をし、季節を感じ取れる工夫をしている。普通家庭と同じように台所からは、食事の準備をしている匂いや音が聞こえてくる。自然光を取り入れた暖かい空間づくりをしている。	ホーム内には季節を感じられる装飾や、地域の銀行に展示した利用者の作品などが飾られており、落ち着いた雰囲気である。昼食後には利用者の方々がホールの馴染みの場所で思い思いにゆっくり過ごす光景が見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	ソファやホーム内に1人掛けの椅子を置き思い思いの時間を過ごせるよう担っている。新聞や雑誌は、自由に読めるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	GHでの生活が入居前の生活の延長線であるよう出来るだけ、思い出の品物や馴染みのある品物を取り入れるよう工夫している。	居室には馴染みの家具や品物が持ち込まれ、個人個人の個性が感じられ、これまでの生活の延長であってほしいとの事業所の思いが感じられる。また、利用者の状態によって安全面に配慮した居室もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒防止の為、施設内はバリアフリーとし、廊下、トイレ、浴室には手すりを施し、高齢者の生活に優しい環境となっている。居室入口には、わかりやすいネームプレートを付けたり、トイレがわかりやすいような配慮をして混乱や失敗を防いでいる。		